

旭川市 地域学校 協働活動通信



Vol. 2 令和3年10月26日

中学生が地域の担い手に！

市内の地域包括支援センターでは、認知症の人や家族を温かく見守り、支援する「認知症サポーター」を育成するための講座を中学生等を対象に開催し、中学生にも地域における見守りの担い手として取組を推進しています。

このような中、東旭川・千代田地域包括支援センターと日常的に連携・協働している旭川中学校では、「世界アルツハイマーデー」である9月21日（火）の給食時間を活用し、校長室からタブレットを活用して、地域包括支援センターの職員が、センターのPRとともに、認知症への理解を深める内容や、認知症の人に出会った時は「地域包括支援センター」に連絡するなど、中学生に期待する役割を説明しました。

学校としては、年度途中にカリキュラムを変更し、講座を開催するには困難な状況もあり、新たな実施形態を模索しながらの取組でした。学校側とセンターの「中学生が地域の担い手となる」という共通の想いによって実現した取組です。実施後のアンケート調査からは、保護者もセンターのことを知らないので、「センターのパンフレットを見せたい」などの声が聞かれ、地域の担い手として行動していく意識が芽生えはじめ、自主的に町内会のゴミ拾いに参加する生徒も出てくるなど、協働活動の取組が浸透しはじめています。



町内会のゴミ拾いに参加する生徒

ここがポイント！

地域からの提案に対して、できないと断るのでなく、学校ができる代替案を提案し、Win-Winの関係に

地域

包括支援センター

学校

旭川中学校

中学生にも、「認知症サポーター」になって、地域での見守りの担い手になってほしい

中学生が地域の担い手になるという想いは共通しているが、学校で講座を開くことは難しい

コーディネート

「中学生が地域の担い手に」という思いは同じ

代替案の提案

給食時に、タブレットを活用して、全校生徒に説明することはどうか

「世界アルツハイマーデー」の給食時間に、包括支援センター職員が、認知症や認知症の人に出会ったときの対応について、全校生徒へ説明

「地域の担い手」としての意識が、中学生に芽生えるきっかけ

編集後記

今後、この通信で、旭川市内の学校と地域が連携・協働した取組について紹介していきます。

ぜひ、各学校や地域での取組を御連絡ください。また、事前に御連絡いただければ、取材に伺いますので、よろしくお願いします。

発行 旭川市教育委員会社会教育課
通信に対するお問い合わせは

TEL 0166-25-7190

E-mail shakaikyoiku@city.asahikawa.lg.jp